



2017年3月吉日

JCC 日タイ修好 130 周年記念事業「つなぐ」プロジェクト

日タイ交流の象徴、アユタヤ日本人村。
山田長政ゆかりの地とされるこの地へさらなる誘客を目指す。
タイの歴史と「つなぐ」

「つなぐ」プロジェクトとは、1887年の日タイ修好宣言から2017年は日タイ交流130周年を迎えます。多くの日系企業がタイに進出し、発展している基礎には、日タイ両国の長年にわたる友好関係があります。この関係をこれからも発展させるべく、JCC（バンコク日本人商工会議所）では両国を「つなぐ」記念プロジェクトを実施します。



1. バンコク・マリオット・マーキス・クイーンズパークにて行われた記者会見の様子。「つなぐ」プロジェクト予算規模は10年間で1億2千万バーツ（3億6千万円）。公式マスコットのムエタイシと。
2. 日本人村バーチャルリアリティのイメージ写真。
3. 日本人村完成予定イメージ写真。

記念プロジェクトの一つとして、JCC 日タイ修好 130 周年記念事業委員会（バンコク日本人商工会議所と日本の民間企業で構成）は、2017年1月30日、泰日協会のアユタヤ日本人村再開発計画に賛同し、総額 650 万バーツ（日本円で約 2,000 万円）の支援を行うことを発表しました。

再開発事業内容には、レストランの誘致、トイレや新たな休憩施設の新設、フェンスの修復、日本庭園の改装、遊歩道の整備、スマートフォンやタブレット端末の位置情報と連動し当時の日本人村を鮮やかなバーチャルリアリティコンテンツで再現するシステムの採用など、2017年10月を完了目処としています。

アユタヤ日本人村への2015年の年間来客数は28,967人、2016年は42,427人と増加しています。泰日協会の試算では、再開発により2018年には72,000人の来客を見込んでいます。